

02 | 陽菜（ひな） / 小1 女児・ポケピースユーザー

「ポケピースは遊び、キャンメイクはママと同じ」——ママとの特別な二人世界に参加したいから CANMAKE が欲しい 1 年生

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「おままごとと、メイクごっこ！あとお絵かき」と、メイクを「ごっこ遊び」として位置づけた。学校は「楽しかった」と明るく答えた。

推論：メイクは陽菜にとって遊びの延長として日常に組み込まれている。室内・日常の文脈にもメイクが存在している。

FD：陽菜にとってメイクは「特別な場のための行為」ではなく「日常の遊びの一つ」として出発している。ただしその後の展開で「ちゃんとしたメイク」への昇格欲求が強く動いており、「遊びのメイク」から「本物のメイク」への移行期にある対象者である。

【2. パート1：今日のメイク】

根拠：「お姫様みたいな気持ち」「きれいでふわふわする感じ」「ぬいぐるみたちに見せる」「お友達はメイクしてないから見せたことない」「びっくりされるかも」。

推論：承認を求める相手がママとぬいぐるみに限定されている。お友達への見せたいという欲求が弱く、「びっくりされるかも」という萎縮がある。メイクの世界が外に開かれていない。

FD：陽菜のメイクは現時点で「内向きの世界」に完結している。ママという安全な承認者と、ぬいぐるみという無条件の受け手の中で成立している。外の世界への開放はまだ起きていない。

【3. パート2：使っているアイシャドウのこと】

根拠：「自分のお金で買えたから、なんか特別な感じがした」「ママも『いいね』って言ってくれたから、もっと嬉しかった」「もっとキラキラしてるやつが欲しいなって思った」。お年玉という自己資金での購買だが、最終決定はママの承認と一致した。

推論：自律的な購買行動を取りながら、ママの承認があって初めて「もっと嬉しい」が成立する。完全な自律でも完全な依存でもない、半自律的な購買構造。購入後すぐに「もっとキラキラしてるやつが欲しい」という上昇欲求が出ている。

FD：陽菜の購買行動は「自分で決める」と「ママと一緒に決める」が共存する半自律構造である。ポケピース選択の決め手は「色がいっぱいあって迷える」「混ぜて自分で色を作れる」という色の豊富さと実験的な楽しさへの惹かれであった。所有した瞬間から次の上昇欲求が動き出しており、現状への満足よりも「もっと上」への志向が強い対象者である。

【4. パート 3：CANMAKE について】

根拠：「YouTube で見た。お姉さんがこれ使ってきれいになってた」「キャンメイクの方がもっとキラキラしてる」「おとなっぽい気がする」「キャラクターとか描いてないから、色だけだから」「ちゃんとしたメイクって感じ」「ポケピースはおもちゃっぽい気がしてきた」。

推論：CANMAKE への認知経路は YouTube の美容動画。「色だけ＝大人のメイク」という審美基準がすでに形成されており、キャラクターIP を「子供っぽい」と評価する視点を持っている。CANMAKE はポケピースとの比較によって「ちゃんとしたメイク＝ママのメイク」の象徴として位置づけられた。

FD：陽菜にとって CANMAKE は「遊びのメイクから本物のメイクへの昇格を可能にするブランド」である。認知経路が YouTube であることは、陽菜がすでにメイク情報を自ら収集する行動を取っていることを示している。

【5. パート 4：メイクを頑張る理由】

根拠：「変身できる感じがするから」「いつもと違う自分になれる感じ」「ちゃんとできてるかなってドキドキ」「『上手にできたね』って言ってもらいたい」「ママと対等な感じがする」「ママのお友達みたいな感じになれるかも」「ママとひなだけの感じ」。

推論：メイクの動機を中心は「変身・自己変容」と「ちゃんとしたい」という技術的な自己評価欲求である。求める承認は「かわいい」ではなく「上手にできたね」という技術承認。ママとの関係においては「対等」「お友達みたい」「二人だけの世界」という特別な親密性への欲求がメイクと直結している。

FD：陽菜にとってメイクの究極の価値は「ママとの特別な二人だけの世界への参加」である。一人っ子という家族構造が色濃く反映されており、メイクはママとの閉じた親密な世界を共有するための行為として機能している。「上手にできた

ね」という技術承認を求める姿勢は、メイクを「遊び」ではなく「習得すべき技術」として位置づけていることの表れである。

【全体総括】

根拠：「遊びじゃなくて、ほんとにメイクしてる感じがするから」「ちゃんとしたメイクができるようになりたい」「買う時より、選ぶ時の方が好きかも」「次のお年玉で買う」「ママと一緒に選ぶのが楽しいから」。

推論：陽菜のメイク行動を貫く一本の軸は「遊びから本物への昇格」と「ママとの特別な二人世界の共有」である。**CANMAKE**はその両方を同時に叶えるブランドとして機能している。購買プロセスそのものがママとの共同体験として設計されており、所有よりも「ママと一緒に選ぶ」というプロセスに価値が置かれている。

FD：陽菜にとってメイクとは「子供から本物のメイクをする人間への自己変容」と「ママとの閉じた特別な親密世界の共有」を同時に果たす行為である。ポケピース選択時は「色の豊かさ・混ぜて遊べる実験性」という遊びとしての魅力に惹かれたが、**CANMAKE**との出会いによって「キャラクターのない色だけのパレット＝本物のメイク」という新たな審美基準が生まれ、ポケピースは「おもちゃ」へと格下げされた。**CANMAKE**はその文脈の中で「本物のメイクへの昇格とママとの共同体験を可能にするブランド」として選ばれている。次のお年玉という具体的な購買計画がすでに動いており、関与度・購買意欲ともに極めて高い対象者である。

対象者プロフィール

- ・ 名前：陽菜（ひな）
 - ・ 学年・性別：小学1年生・女兒
 - ・ 居住：栃木県宇都宮市
 - ・ 家族：父（公務員）、母（専業主婦）、一人っ子
 - ・ 使用ブランド：ポケピース6色アイシャドウパレット
 - ・ 購入経緯：お年玉で自ら購入（母同伴）。店頭で自分で選び、母も同じものを「いいね」と承認
 - ・ メイク頻度・シーン：月2回・ごっこ遊びや外出時
 - ・ **CANMAKE** 購入意向：とても買いたい（次のお年玉で購入予定）
 - ・ 小遣い：なし
-

時差ゼロ発言録

【導入】

モデレーター：こんにちは。今日お話聞かせてくれる人です。よろしくね。今日、なんて呼んだらいいかな？お友達にはなんて呼ばれてる？

陽菜：ひなって呼ばれてる。

モデレーター：じゃあひなちゃんって呼んでいい？ひなちゃんのこと教えてほしいんだけど、今日学校どうだった？

陽菜：楽しかった！体育があったから。

モデレーター：体育楽しかったんだね。何したの？

陽菜：かけっこ！速く走れた。

モデレーター：速く走れたんだ、すごいね。ひなちゃん、学校以外で何するのが好き？

陽菜：おままごとと、メイクごっこ！あとお絵かき。

モデレーター：メイクごっこするんだね。今日もしてきた？

陽菜：今日はしてない。でもこの前したよ！

【パート1：今日のメイク】

モデレーター：メイクごっこ、この前したんだね。どんな感じでやったの？

陽菜：お部屋でやった！ぬいぐるみとかに塗ってあげたりする。

モデレーター：ぬいぐるみに塗ってあげるんだ。自分にもつける？

陽菜：うん！自分にもつける。鏡見ながら。

モデレーター：鏡見ながらつけるんだね。どこにつけるの？

陽菜：目のところと、ほっぺ！

モデレーター：目とほっぺにつけるんだね。つけてみてどんな気持ちになる？

陽菜：なんか、お姫様みたいな気持ち！

モデレーター：お姫様みたいな気持ちになるんだ。それってどんな感じ？

陽菜：なんかきれいでふわふわする感じ。かわいくなった感じ。

モデレーター：かわいくなった感じなんだね。メイクごっこする時、誰かに見せる？

陽菜：ママに見せる！あとぬいぐるみたちに見せる（笑）。

モデレーター：ぬいぐるみたちにも見せるんだ（笑）。ママはなんて言ってくれる？

陽菜：「ひなちゃんかわいい」って言ってくれる。それがうれしい。

モデレーター：ママに言ってもらうのがうれしいんだね。お友達には見せたりする？

陽菜：.....お友達はメイクしてないから、見せたことない。

モデレーター：お友達はまだしてないんだね。お友達にも見せてみたいと思う？

陽菜：.....うーん、どうかな。びっくりされるかも。

【パート2：使っているアイシャドウのこと】

モデレーター：ひなちゃん、今持ってるアイシャドウ、どんなやつか教えて。

陽菜：ポケピースの！6色入ってるやつ。キラキラしてるの。

モデレーター：6色入ってるんだね。それ、どうして欲しいなって思ったの？

陽菜：かわいかったから！色がいっぱいあって。

モデレーター：色がいっぱいあるのがよかったんだね。どうやって手に入れたの？

陽菜：お年玉で買った！自分で選んだ。

モデレーター：自分で選んだんだ。どこで見つけたの？

陽菜：ドラッグストア。ママと一緒に行って、これがいいって言った。

モデレーター：自分で「これがいい」って言えたんだね。選ぶ時、他のやつも見た？

陽菜：見た！いっぱいあって迷った。でもこれが一番かわいかった。

モデレーター：一番かわいかったから選んだんだね。買えた時どんな気持ちだった？

陽菜：うれしかった！自分のお金で買えたから、なんか特別な感じがした。

モデレーター：自分のお金で買えたから特別なんだね。ポケピース、使ってみてどうだった？

陽菜：かわいい！色がきれいだし。でも……。

モデレーター：でも？

陽菜：なんか、もっとキラキラしてるやつが欲しいなって思った。

モデレーター：ひなちゃん、そのポケピースってポケモンのキャラクターとか描いてある？

陽菜：うん！ピカチュウとかいる。かわいい。

モデレーター：ピカチュウかわいいんだね。ポケモン好き？

陽菜：好き！でもアイシャドウはポケモンだからじゃなくて、色がかわいかったから買った。

モデレーター：色がかわいかったから買ったんだね。ポケモンが描いてあるのは関係なかった？

陽菜：……なんか、ポケモンもかわいいけど、メイクとしてかわいい方が大事。

モデレーター：メイクとしてかわいい方が大事なんだね。ポケモンが描いてなかったら買ってた？

陽菜：……うん、買ってたと思う。色がかわいければ。

モデレーター：ひなちゃん、お年玉でアイシャドウ買いたいって思った時、最初にママに言った？

陽菜：うん。「アイシャドウ買いたい」って言った。

モデレーター：ママなんて言ってた？

陽菜：最初「アイシャドウ？」ってびっくりしてた。

モデレーター：びっくりしてたんだね。それからどうなったの？

陽菜：「自分のお金で買うなら、ちゃんと選んでね」って言われた。

モデレーター：「ちゃんと選んでね」って言われたんだね。それで一緒にお店に行ったの？

陽菜：うん！ママも一緒に来てくれた。

モデレーター：お店でママはなんか言ってた？

陽菜：「これかわいいね」とか言ってた。一緒に選んでくれた。

モデレーター：一緒に選んでくれたんだね。ママが「かわいいね」って言ったやつと、ひなちゃんが選んだやつ、同じだった？

陽菜：うん、同じ！ママもこれがいいって言ったから、これにした。

モデレーター：ママも同じのがいいって言ったから決めたんだね。自分で決めた感じがした？

陽菜：.....うん。でもママも「いいね」って言ってくれたから、もっと嬉しかった。

【パート3：CANMAKEについて】

モデレーター：ひなちゃん、これ知ってる？（CANMAKE プティパレットアイズの画像を呈示）

陽菜：知ってる！かわいい！

モデレーター：知ってるんだね。どこで知ったの？

陽菜：ユーチューブで見た！お姉さんがメイクしてる動画。

モデレーター：YouTube で見たんだね。どんな動画だったの？

陽菜：お姉さんがこれ使ってきれいになってた。キラキラしてた。

モデレーター：キラキラしてたんだね。それ見てどう思った？

陽菜：欲しい！ってなった。すごくキラキラしてたから。

モデレーター：すぐ欲しいってなったんだね。今持ってるポケピースと、このキャンメイク、どこが違うと思う？

陽菜：キャンメイクの方がもっとキラキラしてる気がする。あと色がいっぱいある。

モデレーター：キラキラがもっと強いんだね。このパレット、見た目はどう思う？

陽菜：かわいい！なんかおしゃれな感じ。ポケピースよりおとなっぽ気がする。

モデレーター：おとなっぽ感じがするんだね。おとなっぽいのがいいの？

陽菜：うん！なんか、ちゃんとしたメイクって感じがするから。

モデレーター：ちゃんとしたメイクって感じ、か。ポケピースはちゃんとしたメイクじゃない感じがする？

陽菜：.....ポケモンだから、なんかちょっと子供っぽい気がしてきた。

モデレーター：ひなちゃん、ポケピースが子供っぽいつて思ったの、いつから？

陽菜：.....キャンメイク見てから。

モデレーター：キャンメイク見てから思ったんだね。キャンメイクのどんなところがおとなっぽいと思う？

陽菜：なんか、キャラクターとか描いてないから。色だけだから。

モデレーター：色だけだからおとなっぽいんだね。色だけの方がいいの？

陽菜：うん。なんか、ほんとのメイクって感じがする。

モデレーター：ほんとのメイクって感じ。ほんとのメイクってどういうこと？

陽菜：なんか、お母さんとかが使ってるやつみたいな感じ。

モデレーター：お母さんが使ってるやつみたい、か。お母さんのメイク道具、見たことある？

陽菜：うん！ママのは色だけで、キャラクターとか描いてない。

モデレーター：ママのと似てるんだね。キャンメイク使ったら、ママに近づける気がする？

陽菜：うん！なんか、ママみたいにちゃんとメイクしてる感じになれる気がする。

モデレーター：ママみたいにになれる気がするんだね。ひなちゃん、ママのメイク、かっこいいと思う？

陽菜：うん！きれいだし、ちゃんとしてる。わたしもああなりたい。

モデレーター：ひなちゃん、今のポケピース、気に入ってる？

陽菜：うん、気に入ってる！かわいいし。

モデレーター：気に入ってるんだね。どんなところが好き？

陽菜：色がきれいだし、キラキラしてるし。6色あるから迷えるのも好き。

モデレーター：迷えるのが好きなんだね。どの色よく使う？

陽菜：ピンクと、うすいむらさき！混ぜたりもする。

モデレーター：混ぜたりするんだ。混ぜてみてどうなった？

陽菜：なんかきれいな色になった！自分で作った感じがして楽しかった。

モデレーター：自分で色を作るのが楽しいんだね。ポケピースでメイクした時、どんな気持ちになる？

陽菜：楽しい！遊んでる感じ。

モデレーター：遊んでる感じ。キャンメイクでメイクしたらどんな気持ちになると思う？

陽菜：.....なんか、もっとちゃんとしてる感じになると思う。遊びじゃなくて。

モデレーター：遊びじゃなくなるんだね。それってどっちがいい？

陽菜：.....キャンメイクの方がいい。なんか、ほんとにメイクしてる感じがするから。

モデレーター：ほんとにメイクしてる感じの方がいいんだね。ポケピースは？

陽菜：ポケピースも好きだけど.....なんか、おもちゃっぽい気がしてきた。

【パート4：メイクを頑張る理由】

モデレーター：ひなちゃん、メイクするの好き？

陽菜：好き！すごく好き。

モデレーター：どんなところが好き？

陽菜：なんか、変身できる感じがするから。

モデレーター：変身できる感じ、か。どんなふうに変身するの？

陽菜：なんか、かわいくなれる。いつもと違う自分になれる感じ。

モデレーター：いつもと違う自分になれるんだね。メイクした時の自分と、していない時の自分、どっちが好き？

陽菜：メイクしてる時！なんかきれいだから。

モデレーター：メイクしてる時の方がきれいな感じがするんだね。メイクする時、誰かのこと思い浮かべながらする？

陽菜：ママ！ママみたいにしたいなって思いながらする。

モデレーター：ママみたいにしたいんだね。ママのどんなところに憧れる？

陽菜：なんか、ちゃんとしてる。きれいだし、メイクうまいし。

モデレーター：ひなちゃん、メイクするのってどんな時？

陽菜：ごっこ遊びの時と、お出かけの時！

モデレーター：ごっこ遊びとお出かけ、どっちのメイクが好き？

陽菜：.....お出かけの時の方が好きかも。

モデレーター：なんでお出かけの時の方が好きなの？

陽菜：なんか、外に出るからちゃんとしなきゃって感じがする。あとママにも見てもらえるし。

モデレーター：ちゃんとしなきゃって感じがするんだね。ごっこ遊びの時のメイクと、お出かけの時のメイク、気持ち違う？

陽菜：違う！ごっこ遊びは楽しい感じ。お出かけはなんかドキドキする感じ。

モデレーター：ドキドキするんだね。それって嬉しいドキドキ？

陽菜：うん！なんか、ちゃんとできてるかなってドキドキ。

モデレーター：ひなちゃん、「ちゃんとできてるかな」ってドキドキするんだね。誰かに「ちゃんとできてる」って言ってもらいたい？

陽菜：うん！ママに。

モデレーター：ママに言ってもらいたいんだね。ママになんて言ってもらえたら嬉しい？

陽菜：「上手にできたね」って言ってもらいたい。

モデレーター：「上手にできたね」なんだね。「かわいい」じゃなくて「上手にできたね」？

陽菜：.....「かわいい」も嬉しいけど、「上手にできたね」の方がもっと嬉しいかも。

モデレーター：「上手にできたね」の方がもっと嬉しいんだね。なんで？

陽菜：なんか、ちゃんとできたってわかるから。

モデレーター：ちゃんとできたってわかるんだね。ひなちゃん、メイクうまくなりたい？

陽菜：うん！ママみたいにうまくなりたい。

モデレーター：うまくなってどうしたい？

陽菜：なんか、ちゃんとしたメイクができるようになりたい。キャンメイクとか使って。

モデレーター：キャンメイク使ってちゃんとしたメイクがしたいんだね。キャンメイク使えたら何がかわると思う？

陽菜：なんか、もっとうまくなれる気がする。ポケピースより本物っぽいから。

モデレーター：本物っぽい道具を使えばうまくなれる気がするんだね。ひなちゃん、これからやってみたいメイクある？

陽菜：アイラインとか！あとチークもやってみたい。ママがやってるから。

モデレーター：ママがやってるからやってみたいんだね。ママのメイク、よく見てるの？

陽菜：うん！ママがメイクしてる時、横で見てる。教えてもらうこともある。

モデレーター：ママに教えてもらうんだね。教えてもらった時どんな気持ちになる？

陽菜：うれしい！なんか、ママと一緒にメイクしてる感じがするから。

モデレーター：ひなちゃん、ママみたいにメイクができるようになったら、どうなると思う？

陽菜：なんか、大人みたいになれる気がする。

モデレーター：大人みたいになれる気がするんだね。大人みたいになったらどうしたい？

陽菜：.....ママと一緒に出かけする時、ちゃんとしてたい。

モデレーター：ママと一緒に出かけする時ちゃんとしてたいんだね。ちゃんとしてたらどうなる？

陽菜：なんか、ママと対等な感じがする。

モデレーター：ママと対等な感じ。それってどういう感じ？

陽菜：なんか、子供じゃない感じ。ママと同じ感じ。

モデレーター：ママと同じ感じになりたいんだね。ママと同じになればどんな気持ちになると思う？

陽菜：.....うれしい。なんか、ママのお友達みたいな感じになれるかも。

モデレーター：ママのお友達みたいな感じ。それって嬉しいの？

陽菜：うん！なんか、ひなだけの特別な感じがする。

モデレーター：ひなちゃんだけの特別な感じ、か。それってどういうこと？

陽菜：なんか、ママとひなだけの感じ。他の人には関係ない感じ。

【クロージング】

モデレーター：ひなちゃん、今日いっぱい教えてくれてありがとう。最後にひとつだけ。今日お話してみてどうだった？

陽菜：楽しかった！メイクのこといっぱい話せた。

モデレーター：メイクのこと話すの好き？

陽菜：好き！でもお友達はメイクしてないから話せないし、ママとしか話せない。

モデレーター：ママとは話すんだね。ママとどんな話するの？

陽菜：どの色がかawaiiとか、次はどんなメイクしたいとか。

モデレーター：ママと一緒に考えるんだね。それって楽しい？

陽菜：うん！すごく楽しい。ママがいろいろ教えてくれるから。

モデレーター：ひなちゃん、他に何か言いたいこと、ある？

陽菜：.....キャンメイク、早く欲しい。次のお年玉で買う！

モデレーター：次のお年玉で買うんだね。ママには言った？

陽菜：まだ。でも言ったら一緒に選んでくれると思う。

モデレーター：一緒に選んでくれると思うんだね。それって楽しみ？

陽菜：うん！ママと一緒に選ぶのが楽しいから。買う時より、選ぶ時の方が好きかも。

モデレーター：今日いっぱい話してくれてありがとう。またいろいろ教えてね。

陽菜：うん！またね。